

講座

「兄弟の確執」—芦花と兄蘇峰—

日時 平成 27 年 6 月 9 日 (火)

講師 渡邊 熟



徳富蘇峰 (1863~1957)

「蘇峰と蘆花」



徳富蘆花 (1868~1927)

新宿区民センター運営協議会

虚説、巷説と事実（人物にたいする理解と認識）

- (1) 桁目にたつか板目にたつか
- (2) 作品と人格の乖離（葛西善蔵・林扶美子・坂口安居・竹久夢二・永井荷風・太宰治）

賢兄・異弟（天才の兄と弟）

- (1) 毅々褒貶の「知」の巨人
 - ①20歳で開塾～講義はすべて原書
 - ②28歳で民友社を創立、雑誌「国民の友」「国民新聞」を創刊
 - ③明治・大正・昭和の国論をリード
 - ④数々の栄誉～貴族院議員、学士院会員、芸術院会員、文化勲章受賞（昭和18年）
 - ⑤不朽の名作「近世日本国民史」（全・100巻）ギネスブックに掲載
 - ⑥八級戦争犯（戦犯）で自宅軟禁
- (2) 有名な「芦花」、忘れられた「芦花」
 - ①満都の婦女子が落涙した「不如帰」、照憲皇太后もハラハラと落涙、漱石の娘
 - ②自然文学の傑作～「自然と人生」「みみずのたはこと」
 - ③教科書の掲載作品数が、群をぬいて随一
 - ④社会的にあまりにも有名な「兄弟の確執」

即行・奇行・愚考・蛮行（性格障害かパラノイアか）

— 芦花と云う人間について — “これほど興味深い人間はいない”

およそ、これほど矛盾、撞着、欠点だらけの我儘人間はいない。
癪持ち、女好き、衝動的、嫉妬深く、まったくと云つていいほど抑制が利かぬ。
一方、弱虫、卑屈で劣等感が強い、常識外れの人間。

—— 中野好夫「芦花徳富健次郎」第一巻の「あとがき」より ——

(1) 奇妙で奇っ怪な行動の数々

- ①幼少時代～嘉悦孝子に助けられる毎日
- ②幼小時に多様な性の体験（少年時代余を犯した女42人、余を誘った女68人）
「芦花日記」（大正3年8月4日）（あの永井荷風でさえ16人なのに）
(日本におけるボルノのはしり～佐伯彰一氏・前世田谷文学館長)
- ③勝海舟邸での新婚当初～女中が首吊り自殺
- ④勝海舟の言～鍋釜俎包丁お櫃
- ⑤卓袱台破損（片貝海岸～中西月華邸）
- ⑥書斎の大机の傷～鉈で壊す
- ⑦「吾が名を『犬』に代えたい」ほどの犬好きの芦花が、二度にわたり飼い犬撲殺
- ⑧闘病八ヵ月で、看護婦80人を歿首
- ⑨文壇・文士とはすべて没交渉（ミザントロープ）

逆巻く波と疾風迅雷（小説「黒潮」事件）

(1) 小説「黒潮」事件と「告別の辞」

- ①「国民新聞」の記者、外電の翻訳などで「うだつ」があがらぬ存在
- ②明治31年、小説「不如帰」で一躍有名に。「自然と人生」で文名たかまる
- ③〃 35年1月、小説「黒潮」の連載、6月末、突如、中止
- ④〃 12月、生活雑記「霜枯日記」の無断削除、またも激高
- ⑤〃 36年1月、「告別の辞」を送付、原稿はボツ
- ⑥退社、自宅に「黒潮社」を興す
- ⑦「黒潮」巻頭の「告別の辞」が反響をよぶ
- ⑧明治38年8月、講話条約に反対の群衆が暴動。国民新聞社を焼き討ち
- ⑨〃 12月、兄・蘇峰を訪ねて謝罪、「黒潮」の公開は卑怯であった

(2) 小説が挫折、再び激浪が

- ①明治45年8月～第二次桂内閣が退陣、瓦解
- ②西園寺内閣発足～四ヶ月で瓦解、第三次桂内閣が発足
- ③大正2年2月2日～憲政擁護国民運動が起り、数万の群衆がデモと抗議
「やまと新聞」「報知新聞」「国民新聞」が焼き討ちに
二日間の攻防で刀折れ矢つきの兄・蘇峰を見舞い、小説連載を申し出る
- ④大正2年6月8日、小説「十年」連載開始
- 〃〃〃 20日、11回で休載。25日、突如、中止の「社告」
- ⑤〃〃 9月2日、家族4人で、本州、九州、満州、朝鮮など3ヶ月の旅
- ⑥〃〃 10月26日、「京城駅頭」で、無言のまま別れ、以後、死の当日まで
14年間、疎遠、断絶、絶交

「血は水よりも濃し」（覆水、盆に戻る）

(1) 死の直前に劇的な和解

- ①昭和2年2月、狭心症の発作で倒れ病床
- ②〃〃〃、急を聞いて柏谷に駆け付けた蘇峰を門前払い
- ③〃〃 7月、車六台を列ねて「伊香保」へ
- ④看護についている姪・静子との会話から蘇峰への再会に

(2) 「朝日新聞」によって報道された「劇的な再会」と「黄泉への旅立ち」

- ①朝日新聞のスクープで、朝日の独占記事（浅沼一枝）
- ②18日深夜の死去が、翌、朝刊に微細に報じられた不思議

蘇峰の桎梏、芦花の柵（性相近し習い相遠し）

(1) 「兄弟は他人のはじまり」なり

- ①二人の生い立ちの違い～待望の出産と孫の出産
- ②儒学の家系と家族制度、総庄屋代官の家柄
- ③親譲りの異質の性格
- ④世俗と処世、不器用な人間関係
- ⑤思想と生き方～兄「權威」を許容、弟「權威」に反発

兄弟墻に聞くも外其の務りを禦ぐ（詩經）